



# 4月の 川柳互選

## ◆課題吟「令」

(互選) 一人3句以内吐

2	臣民は巧言令色右往左往	白眞弓	2	目配せで付度強いる「アベノ令和」	林
2	令和担いで又土石流がやつてくる	大峰	3	西暦が 令和を超えて 行く時代	広助
2	沖繩に寄り添うと言う社交辞令	徹乗	3	トランプへ巧言令色慎まず	林
2	小心者命令が好き総理殿	ダン吉	3	令和とて冷たき響きアベの命	宏
1	政令で学校事故と呼ぶ見舞金	未知子	3	勅令を出したい安倍の万能感	白眞弓
1	川柳和令和の和とは大違い	一角	3	令和なり書く度思うや『 <small>きでん</small> 歸田の賦』	立東爺
1	令和でも「貧窮問答の歌」多し	林	3	コメディアン朝令暮改はおてのもの	亀公子
1	万葉の知恵者が仕組んだアベ批判	立東爺	3	令和だと！和の字勝手に腹が立つ	一角
1	令しく 平和な時代 込められる	広助	3	洗脳しながら令和押しつける	大峰
1	川柳和令和の和とは大違い	一角	4	令の道あの悪夢へと駆り立てる	和子
1	令和でも「貧窮問答の歌」多し	林	4	命令で安倍付度を製造す	和子
1	万葉の知恵者が仕組んだアベ批判	立東爺	4	改憲NO 召集令状 夢にでる	広助
1	令しく 平和な時代 込められる	広助	5	令の字の上から目線が気に掛かる	未知子
1	川柳和令和の和とは大違い	一角	6	令も和もふんふんとする戒厳令	白眞弓
1	令和でも「貧窮問答の歌」多し	林	7	命令が聞けない蟻は踏み潰す	亀公子
1	万葉の知恵者が仕組んだアベ批判	立東爺	8	フクシマも辺野古も見捨て来る令和	亀公子
1	令しく 平和な時代 込められる	広助	9	新元号 令が放った威圧感	徹乗

◆自由吟 (互選)

一人5句以内吐

- |   |                    |     |   |                    |     |
|---|--------------------|-----|---|--------------------|-----|
| 1 | 流された雛は今頃どこだろう      | ダン吉 | 1 | 兜の緒締まっているか票の束      | 白眞弓 |
| 1 | 言いたいこと言ってひっそり生きている | ダン吉 | 1 | 核のゴミヤクザな国がばらまくの？   | 一角  |
| 1 | 五輪相仕事ができないクビひとつ    | 一角  | 1 | 付度大臣良心の欠片も失せました    | 大峰  |
| 1 | 有権者ほんろうされるスターかな    | 和子  | 1 | ブラックホール付度議員を入れてやる  | 大峰  |
| 1 | 世の犯罪を学校事故と申します     | 未知子 | 2 | 万葉の知恵者が仕組んだアベ批判    | 立東爺 |
| 1 | お札でも男尊女卑顔も逆        | 一角  | 2 | いささかも存在理由のない政府     | 林   |
| 1 | トランプ氏 司法妨害 露疑惑も    | 宏   | 2 | 年号と 法皇ニュース 超過熱     | 宏   |
| 1 | 口癖に運命などと言う男        | ダン吉 | 2 | 絵本出るいつか来た道戦闘機      | 和子  |
| 1 | 学校事故原因究明よりも見舞金     | 未知子 | 2 | してやったり安帝批判の新元号     | 白眞弓 |
| 1 | 法皇と 新天皇は 「象徴」 越す   | 宏   | 2 | 安倍去れよサイフも平和もすってんてん | 和子  |
| 1 | 市議選のポスター十票あればなあ    | 一角  | 2 | 新元号で支持率上がるミステリー    | 徹乗  |
| 1 | 沖繩に真摯に寄り反う総理殿      | 未知子 | 2 | 負の種が次々育つ永田町        | 亀公子 |
| 1 | 新基地は サンゴジュゴンも 死の海へ | 宏   | 2 | 土踏まず 大地をつかみ 知る命    | 広助  |
| 1 | そうですか周回遅れなんですか     | ダン吉 | 2 | 「和」の一字学問奴隷が持つていく   | 大峰  |
| 1 | 司令部にふたり派遣で次何人      | 一角  | 2 | 戦後史の 平和を抱いて いる護憲   | 広助  |
|   |                    |     | 2 | 一強も縫い目がボロボロ裂けてきた   | 大峰  |
|   |                    |     | 2 | 手を挙げる人が皆無の村議員      | 白眞弓 |

- 2 政権の都合で決める 消費税 広助
- 2 新紙幣昔の顔がずらりと並ぶ 和子
- 3 戦争を知らぬを若ぶる馬鹿がおり 未知子
- 3 万葉のワナに掛かったアベの某 立東爺
- 3 護憲派の元号作者真意見え 白眞弓
- 3 モリカケは何もわからず過ぎていく 立東爺
- 3 護憲派の選ぶ元号安倍批判 白眞弓
- 3 選挙負け麻生の顔がひん曲がり 徹乗
- 3 命残照 平和を守る 選挙権 広助
- 3 芽の出ない私それでも見捨てない ダン吉
- 3 がっかりです復興よりも大事とは 徹乗
- 3 原子規制委やつと腰あげホツとする 未知子
- 4 新元号国書由来も忖度か 徹乗
- 4 地位協定 憲法よりも 君臨す 宏
- 4 いつまでも元号消せぬ日本だね 和子
- 4 権力に民意を掬う杓がない 亀公子
- 4 喉骨が刺さったままの新時代 亀公子
- 4 生活苦受診出来ずに「手遅れ死」 林

- 5 知る権利 政権こびぬ 記者魂 広助
- 5 絶望の淵に追い込む年金狩り 林
- 5 消費税ポイント付ける馬鹿らしさ 大峰
- 6 高過ぎて健康害する保険料 林
- 6 汚染村田圃丸ごと刈り残す 亀公子
- 7 忠犬は忖度したがクビになり 徹乗
- 8 原発の手が実習生に絡みつく 亀公子

## 自句自解・自選句

### ◆ 自句自解 白眞弓

安帝という言葉が句の中にあります、  
「してやったり安帝批判の新元号」

これは令和の元になった万葉の中の詞の、さらに中国の元歌の趣旨です。

当時日本の朝廷は乱れていたそうですね。都の乱れを嘆いて宴を催したとか。この後漢の安帝の時も乱れていたとか。

あまりの符合に、推薦者の隠れた意味を詮索します。護憲派学者だそうですね。

姉を偲ぶ 白真弓

スルリと脱いだ服着る人は亡く  
ハンガーの喪服ひしゃげて架かりおり  
きょうだいは同士と気づく茶毘の朝  
一片のお骨が語るあのちゃぶ台  
骨一片ぬくもり戻れと掌に包む  
線香のせいと涙目月命日

◆自選句 前田大峰

2+2何百倍にもなる防衛費

介護けずれやベッドの中の仏様  
プーチンを除いて通る晋三さん

◆自選句 中野林

日本の民主主義を土砂で埋め

政権のウソまで隠す宮古島

国あげて留學生の夢つぶす

権力の限りを尽くして民イジメ

弱い者イジメに精出す国保かな

付度を学ぶ国文学者あり

アベ政治潰して爽やかハイタッチ

昭恵氏と手を取り合ってまた逃亡

◆おたより 岩佐ダン吉

「反維新でない自民」「反自民でない維新」わかりにくいこの構造と、なら私たちは何を目ざすのか。川柳で何を訴え世論にまで問われているのでは――。

◆投稿 岩原茂明

ダン吉さんの句に思う

「核ゼロの世界見るまで生きてやる」

全日本川柳協会が、それこそ日本全国から句を募集した「平成柳多留第21集」の一次選者として、

私は約2670句のさまざまな句から213句を選んだ。その中で、私が選んだ秀句三句のひとつが「核ゼロの世界見るまで生きてやる」であった。

その決意。実は私も廃炉までといつて、脱原発の行動に参加しているから共感した。

選者には、もちろんこの句を吐いた方がどなたかわからなかったのだが、和の同人の岩佐ダン吉さん

◆ ほのぼの川柳 《投句歓迎》

モルモット思ったよりも大きいな

神田 鯛

参観日心ドキドキ親も子も

神田 鯛

五月鯉令和の空をどう泳ぐ

真人 我

一度でも呼ばれてみたい令夫人

オニドン

旨そうなドーナツ宇宙にあるんだね

ひろ

アインシュタインが打ち立てた

相対性理論で予想されたブラッ

クホール。「仮説」であったが

100年経って実証された。

の句と知って。実に若々しいと感じた。しかもこの句は第二次選者たちによって、日本青少年育成協会会長賞を受賞されている。

ここに川柳界のかつて保守的だった潮流と核ゼロを一貫して主張してきた潮流とが、ともに手を携えている姿が如実にあらわれている。そう思い、紹介させていただいた。

例会で席題を出し即興で詠んでみました。

席題「わらう」

アキエ君万能自慢笑っちゃい

一角

安倍笑いでニー勝利の笑いよし

和子

バンザイと沖繩3区笑いあり

和子

有権者忬度議員嗤えない

広助

嗤っちゃうトランプに寄り添う総理殿

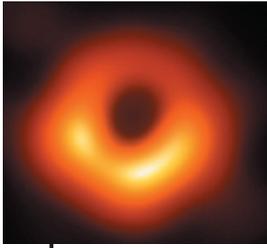
未知子

ウケ狙い？ 笑えぬ演説クビがとぶ

徹乗

大笑い令和づくりの裏事情

立東爺



# 「令和」裏舞台 後漢の高官が腐敗嘆く

『文選』6世紀

文選(六世紀)

仲春 令月  
時和 氣清

万葉集(八世紀末ころ)

初春の令月にして  
氣淑く風和く。

『万葉集』8世紀末

さて四月馬鹿の日、「万葉集由来」の新元号が発表され、テレビは礼賛一色の狂乱状態。ネットの反応は賛否が半々。『人に命令して仲良くさせる』として否定的な意見も多く出されていたが、決定的な資料が出され、謎解きが始まった。資料は岩波書店編集部がツイッターで提供した。

《新元号「令和」の出典は万葉集「初春の令月、氣淑しく風和らぐ」ですが、『文選』の句を踏まえていることが、新日本古典文学大系『万葉集(一)』の補注に指摘されています。》

『文選』の作者は後漢の張衡ちやうていという高官で、『帰田賦きでんのふ』(田舎へ帰ろう)なる詩を書いた。

また、令和を提案した学者が万葉学者の中西進氏と明らかにされた。氏は安倍総理に批判的で、自衛隊海外派兵や改憲反対の

意志を表明している学者でも知られ、火に油を注ぐことになった。張衡はどういう人か、『帰田賦きでんのふ』で何を語ったか。

張衡ちやうていは科学者で文学者。彼が仕えたのは後漢6代皇帝の“安”。安の治世は宮廷官僚の宦官が幅を利かせ、忬度や賄賂の横行を招いた。嫁の閨后えんも側室の子を殺したり、縁故政治を増長させるなど、やりたい放題で評判が悪い。国の腐敗に我慢できなかつた張衡は朝廷を辞し『帰田賦きでんのふ』を書いたという。(ちなみに「閨后」の奔放さが“自由”の語源になっている。)

「おれは国書を典拠とする元号をつけた初めての総理だ」と悦に入っている安倍首相だが、自らの政権とそっくりの不正と忬度官僚の跋扈はつこを嘆いた中国の高官の言葉を元ネタとする元号をつけてしまったのである。(立東爺)

川口市の石上元旦さんからの連絡で判明した「人民川柳」情報。この文章は鶴彬を世に紹介された初めてのものです。この文章をきっかけにして、金沢で岡田一吐氏（おかだいつと）（「和川柳社」創立者）などが資料を収集、その後、たいまつ社「鶴彬全集」（一叩人編）としてまとめられました。

「人民川柳」No 3 1949年9月

転載

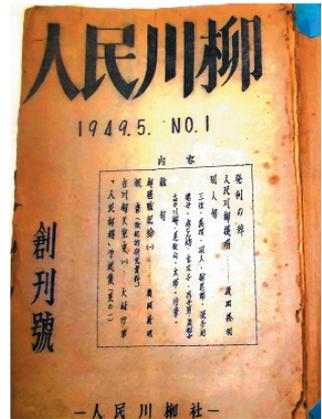
鶴彬つるあきらのこと——随想風に

小池 蛇太郎

注…送りがななど、原文にそって活字化しました。判読不明文字は●で。（編集字）

鶴彬の事を少しばかり書かして貰うことにする。久しく世間から忘れられていた鶴彬のことが此の頃になつてボツボツ話題に上がつて来たし、彼の死に方が川柳家として尋常ではかつた事から相当関心を高めて来た人もある様だから、此の際ぼくの書くものにも多かれ少なかれ興味と期待をかけられるかも知

れないが、実は余り大したものではない。一種の思出話、物語の程度を出て得ないものであるから其の積りで読み願いたいのである。本当をいうとぼくはもちよつとガツチリした鶴彬評伝といった風なものを此の際書いて置きたかつた。将来何人かの手に依つて鶴彬全集が出版されるという予想の下に、彼が年譜の資料と迄は行かなくとも、資料の資料として採り上げられる程度の充分の信頼性の持たれるものにしたかつた。がそうする為には手ぶらではない。僕の頭の中にあるものを思い出し思い出し書く様なたよりないものでなく書くものが確かりした拠り所がなくてはならない。所が生意気現在のぼくは鶴彬のことに関連して何一つ確実の資料を持合せていないのである。僕は不幸にして大陸引揚に際して一切の書物を処分して了つた。どう処分したかは言はない事にして兎に角或る意味では僕の唯一の財産である一切の書物を失つて了つた。之はぼく秤りでない、引揚日本人の全部例外なく一様に受けた損失



↑「人民川柳」創刊号  
編集発行人：石上 太郎  
発行所：人民川柳社

であるから、今更死子児の齢を数える様な愚痴を列べてみた処で始まらないが、総ての文献的のものが座右にないという事は何かにつけて不便であり不都合なのである。現に今鶴の霊を慰めんが為に、彼が昭和年間に於ける輝かしくも悲愴なる其の業績を伝え様として又もやこの困難性の問題にぶつかるのである。扱て前置は此の位にして之から鶴物語の本文に筆を進めることにしよう。

## 物語の一

鶴は本名喜多一児、勿論鶴彬は其の筆名である。生国は能登であるが何郡何町村といふ様な細かい

ことは全然知らない。只彼の幼年時代のことは少しく聞き込んだことがある。彼と同じ能登の出身で彼と同年配の川柳家で古込一輪という男が居た。昭和五六年頃東京へ出て来て中野駅前の或カフエーの Cock をしていた。ぼくは当時中野に住んでいたので、役所の帰りになどよくそこに立寄ってビールを傾け乍ら、料理場から一輪を呼び出しては少詩柳談を試みるのが常であったが、話の中心はいつも鶴のことだった。鶴は郷里では珍らしい麒麟児で所謂せんだんは双薫よりの方だった。だが十代の神童が二十代で才子となり、●て漸次平凡人になって行く風でなくて、彼は年と共に其のりん質に磨きがかけられ益々頭が冴えて行くという。その様に語った一輪は今どこにどうして居るか知ら。彼が今健在であるなら人間鶴の真の姿を伝達するのに色々聞きたい事があるのだが、其の後一片の便りすらない。鶴は何年頃から川柳を始めたか、そして初登場の舞台はどこであったか、ぼく

は鶴よりズツと後れて柳壇に出て来た人間であるから、彼が川柳人としての発生から其の發展過程を丸切り知らない。総ては想像の外はないが、恐らく意識して川柳を作り始めたのは十八九才、最初の迂り出しは「氷原」からではないかと思ふ。之は色々の点から勘案しての判断であるから確実の鶴は当時の新興人を代表していた『川柳人』「氷原」「影像」の三者を見比べて確認する外はない。彼の世を去ったのは何年頃であるか、之は同じ想像でも稍確実の根拠がある。ぼくは昭和十二年九月満州へ渡ったのであるが、其の直後に例の川柳人事件が起つたのであるから、彼の死は其の十二年の終り頃か翌十三年の初頭と判断して先ず誤りはない筈である。彼の命日はいつであろうか。之は年譜の爲にも鶴忌を営む上にも極めて大切な事であるが、ぼく等の横に川柳人に關係している人間にも分っていない。何分彼の死に方が昔流に言うと獄死であるし、その当時は探り合いを怖れて

接近する者もなく、井上信子さんのみが遺族以外では度々面会に赴かれただけであるから、葬儀なども遺族だけでしめやかに執り行はれたであらうし、信子さんなどへも死亡の通知があつたかどうか、恐らく一本の線香を手向けた友人もあるまい。従つて行年幾つ何月何日没という様なことは知られていない。彼を死に導いた病は何であつたか、死亡診断に依る病名は赤痢とある。筋肉労働重労働も進んで体験した事もある逞しい体力の彼が、漂泊の詩人芭蕉と同じ病で仆れたという事には若干の疑問がないではない、勿論ああいう特別の世界であるから、伝染の径路とか当時の栄養状態とかいうものは知る由はないが、兎に角身体余程衰弱していたのではないかと思う。彼の才能を以てせば詩でも短歌でも俳句でもゆく所として可からざるなしであつたであらうが、彼は特に川柳を愛した。何故川柳を特愛したかというところ、それは芸術の社会性という所から出發して、社会批判

性というものを多分に持つ其の本質から川柳のよさを認めそして愛した。愛する事は信ずる事よりも深い。鶴の川柳に注いだ愛の深さは計り知れないものがあつた。よく世間の人は文芸を愛し愛する文芸の為めには生命を賭ける精神を傾けるといふ。だが其の多くはホンの口先だけで、いへば言葉の実栄か飾りに過ぎないイザとなれば竹の節と同じで自己防御から一步も出まい。鶴は生命をかけた、からだを張った。身を以て実践したのである。信子女史は鶴は稀に見る純情家であると言つたが、純情なればこそあれまでつき詰めたのである。川柳三百年の歴史の中に命がけて句を作つた人間が鶴の外に一人でもあるか？ あるというならばくは其の人にお目に掛かりたいと思う。

## 物語の二

ぼくが初めて鶴を識つたのは昭和五年八月の柳樽寺例会の席上に於てであつた。当時彼は既に新鋭

鶴彬として革新川柳壇の三役所であり、僕は未だ「川柳人」のふんどし担ぎであつたから元より彼が蛇太郎の存在など知る筈はない。「鶴彬君です」とおん大剣花坊から紹介されたが夫れは僕一人へではなく、司会の一統への紹介であるから只僕は黙礼しただけで口は利かなかつた。僕は末席に居る。彼は上座の剣花坊の傍に腕を組んで座っている。ぼくとは大分距離と高さがあつた。僕の眼に映ずるのは精悍の気の溢れた白面の一青年の姿のみであつた。只当夜僕が彼に不満を感じたのは、互選に際して採る句がないと言つて選を棄権したことであつた年少氣を負っている彼の態度を僕は憎いと思つた。当夜劍師に選ばれた彼の句は

マグドナルドになつても失業が増える

というのであつた。之は変化という席題の句であるから取立て、いふ程の事はない。併し当夜の句の中では異色のあるもので、初めて見る鶴の作品としてぼくの銘心した句であつた。夫れから姑く彼の姿を

見掛けなかったが昭和九月十月（或は十一月）劍坊追悼句会を芝の金地院で開催する数日前、僕は信子さん宅を訪れた。すると「鶴さんが来ています」といって奥さんは僕を奥の間へ誘った。僕は其時初めて鶴と親しく対談したのである。鶴は性格の明るい方で一本気の所がよく言葉や態度に現はれ弁舌も爽やかの方で、相手の出様一つで和戦何れでもという鋭さ敏威さがキラリと情熱に内めく眸の底から発散する、よく口も八丁手も八丁という鶴は筆を執ら

## シベリア抑留の記録

⑦

「在ソ三年 生と死のドラマ」

故・秋山茂氏の遺稿より

前回までのあらすじ

入ソして二年（昭和二十二）。日本人の捕虜も随分大きく変わった。地方人は一般にソ連兵よりもしろ日本人捕虜に対して「尊敬の念を抱いてい

しても弁口に於いても議論にかけては人に負けなかった。川上一劍坊が上京した時柳樽寺に於て鶴と会いし、暁を徹して主義の相違から議論を闘はしたという一つ話があるが、其の一劍坊も召集されて南海の孤島に星と散り、鶴は夫れに先立つ事二年、囹圄れいぎよ（※）の人として天くして逝った。支部●茂以来二人の有為の作家を斯くの如く失ったのである。戦争とは斯かる方面にまで取返しつかない損失をもたらしたのであった。（未完）（※注：獄舎のこと）

た」ようである。特に若いソ連婦人には日本人に対して憧憬を持つ者が多く、日本人捕虜との間に美しい愛が芽ばえたという話もあった。しかしソ連側は絶えず捕虜の編成替えを行い、決して同一部隊をそのまゝ永くおくことはなかった。

### 炊事係は誰もが望む垂涎職場

満州航空会社の課長だった野村伍長（鹿児島県）や浪曲師広沢一蔵こと飯塚善太郎氏（群馬県）など

が小隊の一員として入って来たのも三年目で、互い  
に出身地や経歴などを語り合い階級意識など無く、  
人と人との心の結び付きが無言のうちにもだんだん  
強まっていた。

唯斯うした中であって入ソ以来配属され一番目  
障りだった政治将校の工作が効を奏したのが自称新  
聞記者の木谷某という男を中心とする民主グループ  
が出来て政治将校の威をかる彼等がだんだん台頭し  
始めてきた。しかし一般は冷静で求めてグループに  
近付こうとする者もなく何等の影響もないまま民主  
グループが舞台から遊離したような格好になったの  
は、奉天市民をはじめ年配者が多かったせいだろう。  
然し作業は勿論日常生活でもこのグループが恵まれ  
た立場にあったことは疑う余地はない。

昭和二十二年春爛漫の候となりましたが上旬イル  
クック市北西郊外で建築場作業をしていた時、マリ  
タ地区から大高中尉四〇名余りの現役の騎兵中隊が  
来て、私達の中西中隊（三重高農出の獣医少尉）と

合流し同一作業を始めたが取り敢えず各小隊から  
二名の炊事勤務者が選ばれ私の武内小隊では選挙  
により私と軍属出身の吉田某が選ばれた。空腹の  
ため栄養失調になる捕虜に炊事係は誰もが望む垂  
涎職場である。

大高隊からは若い唐沢伍長と山野兵長がやって  
来た。二人共筋骨逞しく一七〇センチ七〇キロは  
あるうかと思われる大男で二人にはわれわれの隊  
員のような暗い影はもちろん疲労衰弱の後さえ見  
られず、とても捕虜の姿とは思われず、山野兵長  
など絶へず巻煙草（パピロス）を喫っていた。

二人の話からすると彼等は北支方面から終戦時  
に満州に移動して捕虜となった部隊らしく大高中  
尉は召集の幹部将校（浜松高等工業学校出身）で  
大変おとなしい人だが指揮班長の某曹長が給与作  
業割など一切の采配を振りこの曹長を中心として  
唐沢や山野達が参謀隊として中隊を牛耳りボス化  
したグループは在満当時と変わらない生活を続け

ながら一方でソ連兵を巧みに懐柔し二年有余の間のさばっていたのであった。満州から持ち込んだ襦袢（袴）下、手袋、靴下など未だ可成り隠し持っているという口振りです。特に山野兵長は入隊までの間大阪付近でカフェーの用心棒をしていたと自慢気に話していた。そのせいか一寸したことにすぐ暴力を振るいその都度私が入ったのは年齢のせいであつたのかも知れない。

「飯盒はんじゆうが汚れている！」というので飯上げを最後にされその為に作業出発が遅れ隊員の避難を浴びた兵隊や、殴られたり蹴られたり果てはスープの入った飯盒を投げつけられた兵隊がどれほどあつたらうか。

若い兵隊など山野や唐沢には戦々恐々として一日三回、分隊毎の食事受領が大きな苦痛であつたようである。

## 四十キロ平方の演習場の伐採

此処の建築作業から五月中頃、突然北方のマリタ地方に移動し同地のソ連軍演習場の一隅で伐採作業に掛つたがこの時、既にわれわれは四二四大隊から四三四大隊にかわり大隊長は陸大出の多田少佐であると聞いたが各隊が分散されていたため私は見たことも逢つたこともなかつた。

丘陵地の外れを満々と水が湛えたアンガラ河が悠々と流れるマリタの演習場は広大で面積は推定四十キロ平方もあつたと思う。

全般になだらかな起伏の多い丘陵地帯で大小のシベリヤ赤松や白樺、カラ松などさまざまな樹木が叢生する自然林の中に道路が無数に走り、砂質壤土が多く、石や岩などは見あたらず、雑草という程には至らない芝生のような草が地表を覆い牧場か競馬場にでもしたら格好と思われる地勢であつた。

駅とは名ばかりで駅舎らしいものはなく引込線が五、六本と家根のないホームが二つあるだけと

いった野戦ホーム式の簡単なものであった。

われわれが着いて間もなくソ連軍が到着しはじめ、可成り多くの米国製のトラックや独ソ戦で活躍したという自慢のトラ戦車などが樹間に見え隠れしていた。日本人の近接は許されず広い演習場の片隅に八人用の天幕を張り一個所にかたまり炊事場はこの天幕群より五十米ほど離れた丘陵地のふちに大型天幕三張（ソ連兵用一、炊事勤務者用一、糧秣庫用一）と小型天幕一を以て設営され小型の天幕には炊事班長の塚本班長が当番と共に寝起きしていたがこの軍曹が又なかなかの強か者で柔道六段で彼は紀元二六〇〇年奉祝武道大会に鹿児島県代表として出場したことを自慢気に話していた。

然し山野も塚本も何故か私には優しく「秋山のおっさん」と呼んでいた。二人に共通していた点はソ連の警備兵（チャソボーイ）に対する迎合的な振舞いで、彼等が媚びを諂う<sup>へつら</sup>様子が時として私

には哀れにさえ見え、自らアジアのリーダーを誇った日本人の本当の姿を垣間見たような思いで不愉快であった。

### ソ連兵への媚びと下克上

此処でも彼等が日本人捕虜に対しては常に高圧的で暴力を振るうことも珍しいことではなく、一度「炊事班長を非難した」というので怒った塚本が幹候出身の若い将校（少尉）を炊事の広場に連れ出し軍服の襟を掴んで何回も「背負投げ」を掛けようとするが件の将校も細身の体ながら可成り柔道の心得があるらしく何回やつても掛けられず周りで炊事勤務者が見ている手前もあって塚本は益々いきり立ち、とうとう足払いで倒したまま憤然と幕舎に入ったことがあったが、こうした下克上はシベリヤの日本人間では日常茶飯事であった。

（次回に続く）

## 編集後記を兼ねて

◆ 4～5月の代替わり騒動、海外の報道では安倍政権と皇室の確執をテーマにして日本のお祭り騒ぎを報道していた。異常を無批判に受け入れる国民多数の異常さ。かつての戦争への入口はこの様な雰囲気だったのだろうと恐怖を感じた。◆今号は七十年前の「人民川柳」に鶴彬を紹介した小池蛇太郎氏の貴重な文章を紹介しました。不鮮明な写真だったので誤字があるかもしれません。◆今回「プ

## 5月例会のご案内（毎月第4木曜に変更！）

- ◆ 例会 5月23日（木） ◆ 投稿×切：19日（日）
- ◆ 課題 「和」 3句以内 ◆ 自由吟：5句以内
- ◆ 自選吟、連作、エッセイ、川柳論、「意見など」もお願いします。川柳に関する資料などもご紹介下さい。
- ◆ 句報を持参下さい。例会で話し合います。
- 投稿 FAX（076）254-0762
- メールアドレスは下段に。

郵送は  
下段住所へ。

口文学運動の盲点」は紙面に余裕がなく休みました。次回は反戦詩人・楨村浩と従軍作家・「放浪記」の林芙美子をとりたい。

【お知らせ】6月2日（日）

「あかつきのひ  
暁碑つじ祭」《今・この時・鶴彬》  
しるあき

掃除と食事会 & DVD観賞会

午前：碑の掃除（10時～）

午後：千寿閣で食事会（0時～）

◆ DVD観賞（食事後～）

「ドキュメンタリー・鶴彬」

◎ 食事は要予約・1000円。他は無料。  
途中からでも自由にご参加を。

金沢・卯辰山玉  
兔ヶ丘

「和川柳会報」  
会員募集しています！

同人：4000円/年  
投句/購読：2000円/年  
ご協力お願いします。

★会報の他に、関連資料などもお送りします。

和川柳社 〒920-0335 金沢市金石東2丁目15-30（渡辺 寛）

電話 FAX：076-254-0762 PC-mail：kananabe@popolo.org

携帯：090-9445-1302 携帯 mail：kan-wata@i.softbank.jp

振込先：北國銀行中央市場支店 #191 普通 640「和川柳社」